

# 藤崎台童園のあゆみ

No.1

年	月	沿革
昭和 21年	3月	緊急義済敬人会の孤児部・敬人童園として市内細工町の西光寺の御堂を借りて発足。熊本駅前等に浮浪していた子どもたちを収容保護したが、食糧事情が悪く困難を極めた。23日に市内宮内1番地の元陸軍病院の廃屋に移転。施設としての形態ができなかった。収容人員30～50名。
	11月	敬人会が解散し、熊本県経営（恩賜財団同胞援護会熊本県支部委託）となる。
22年	1月	ラウ物資の第1回配分があり食糧事情が少しはよくなった。
24年	1月	熊本県経営が廃止となり、独立認可される（6日）
	2月	昭和23年度共同募金配分金で園舎を現在地に新築移転する。
	3月	児童福祉法による児童養護施設として設置認可を受ける。
	4月	県・市・地域・施設関係者132名が集まり、園庭で落成式を挙げる（12日）
25年	10月	任意団体から財団法人組織となる。定員60名。
27年	4月	社会福祉事業法に基づく社会福祉法人に組織変更。
	11月	借地6,990㎡を国から買い取り、法人所有地となる。
31年	2月	定員を70名に変更。
33年	5月	年賀ハガキ配分金により職業補導所を併設。
35年	3月	アフターケア施設（後、女子別館）を新築。浴場を新築。
36年	4月	閉鎖した職業補導所を改装し、藤崎台保育園を設置。
39年	10月	戸崎文庫始まる（当初匿名だったが、数年後贈り主は丸山氏と判明）
40年	4月	日本自転車振興会から215万円の補助を受け、児童居室1棟を増築。
	5月	創立20周年記念式典。
	11月	住居表示が変更となり、宮内町2番16号から古京町3番5号に変わる。
42年	3月	日本自転車振興会から477万円の補助を受け、園舎を改築。
	10月	永年児童福祉に尽力した功績により園長・平野松枝、藍綬褒章を受ける。
43年	1月	国・県から老朽社会福祉施設整備費補助金を受け、総工費5,885千円で給食棟（1ホームを含む）1棟を改築。 昭和40年から分棟を始め、それまでの大舎制から小舎制の利点を取り入れた養護方式に切り替えてきたが、この工事で園舎5棟となり、時代に即応した養護方式へと転換した。
44年	10月	映画「厚い壁」（中山節夫監督）のロケが園舎2棟と園庭を使って行われた。
45年	4月	永年児童福祉に尽力した功績により園長・平野松枝、勲5等宝冠章を受ける。
47年	6月	熊本市道路計画により園庭下のトンネル工事始まる。園庭下の部分は10月末完成。その際、工事用車両通行のため坂道が応急舗装され、それまでの大雨のたびに流失した土砂を掘り上げ、えぐれた道路を補修するといった苦労がなくなった。 また、トンネル工事に伴い、園舎3棟を解体移転。また、日本自転車振興会より960万円の補助を受け、総工費1,488万円余で管理棟（1ホームを含む）の改装工事を行う。
	8月	トンネル工事で不便さに耐えている子どもたちを市長が慰問（3日）
48年	11月	園舎3棟の改築整備を終え、5棟7ホームとなる。
50年	5月	創立30周年記念式典（五峯閣）
53年	3月	女子別館を解体、職員宿舎新築（後、女子棟）
55年	4月	平野松枝から尾里一清へ園長交代
	8月	保育園に通じる道路が市道認定される
60年	2月	藤崎台保育園全面改築（9/14起工、2/10竣工、2/12供用開始、5/25落成式）
	6月	藤崎台童園創立40周年記念式典（8日）
	10月	平野松枝理事長死去（正六位に叙）に伴い、第二代理事長に堀内京子が就任
61年	9月	平野松枝先生を偲ぶ会をホールで開催〔卒園生、旧役職員、平野家出席〕（27日）
62年	12月	浴場改築

年	月	沿革
平成 7年	4月	RKKTV が戦後 50 年を一つの区切りとして制作した「電撃黒潮隊」で創立当初の卒園生を追った番組が全国放送された。
	5月	創立 50 周年記念式典 in Doen
8年	3月	男子棟増改築
	5月	第三代理事長に平野哲郎が就任
10年	2月	第四代理事長に堀内京子が就任
12年	5月	女子棟増改築
14年	11月	尾里裕子、勲六等宝冠章受章
16年	4月	5号棟に小規模グループケアのユニットを設置
	5月	第五代理事長に尾里一清が就任（園長兼務）
17年	10月	創立 60 周年記念祭を挙行（ホテルキャスル）
18年	4月	尾里一清から尾里裕子へ園長交代
	9月	浴場 2 階増設
19年	4月	市内島崎 2 丁目に児童自立援助ホーム大楠を開設
20年	11月	尾里一清、瑞宝双光章受章
21年	4月	3号棟に小規模グループケアのユニットを設置
22年	4月	藤崎台保育園創立 50 周年記念式典
23年	5月	光永哲也から山際洋徳へ藤崎台保育園園長交代（平井⇒緒方⇒松浦⇒平野⇒光永）
	10月	創立 65 周年記念式典 in Doen
25年	5月	児童養護施設藤崎台童園後援会発足
26年	3月	児童自立援助ホーム大楠事業廃止
27年 (2015)	7月	地域小規模児童養護施設「さざんか」開設
28年 (2016)	4月	尾里裕子から北村直登へ藤崎台童園園長交代
		藤崎台童園の入所定員を 70 名から 64 名に減員
		3号棟に新たな小規模グループケアのユニットを設置
	熊本地震発生（4/14 [マグニチュード 6.5 震度 6 弱]、4/16 [マグニチュード 7.3 震度 6 強] *ともに熊本市の震度、益城町・西原村は震度 7） 法面崩壊、建物・備品の破損はあるも人的被害なし	
8月	藤崎台童園グループホーム棟及び厨房棟の起工式	
12月	藤崎台童園新厨房棟完成、供用開始	
29年 (2017)	3月	藤崎台童園グループホーム棟の上棟式（3/4）
	4月	山際洋徳から八高雪枝へ藤崎台保育園園長交代
		社会福祉法人制度改革に伴い評議員会を設置、評議員を置く。
		新たに常務理事を設置、三浦直樹が常務理事に就任
		藤崎台童園組織改革（施設運営会議、統括主任の設置等）
	2号棟に新たな小規模グループケアのユニットを設置	
	7月	藤崎台童園グループホーム棟（小規模グループケア）2棟オープン
藤崎台童園グループホーム棟及び厨房棟の落成記念式典（7/2）		
10月	2号棟に新たな小規模グループケアのユニットを設置。これにより全ホームの小規模化達成（小規模グループケア指定 6 箇所、小規模グループケアユニット 1 箇所、地域小規模児童養護施設 1 箇所）	
	敷地南側の法面災害復旧工事完了（与倉連隊長の碑を移設）	
11月	創立 70 周年記念式典並びに藤崎台童園後援会総会・交流会を開催（11/25）	
30年 (2018)	4月	藤崎台童園の入所定員を 64 名から 60 名に減員
	10月	2号棟 1 階を改修し、1号棟から法人・施設事務所を移転
31年 令和 元年 (2019)	4月	藤崎台童園の入所定員を 60 名から 56 名に減員
	7月	平野松枝・柳原信子基金の創設
	9月	老朽化により旧 1 号棟を解体撤去
	10月	ホームサインをリニューアル

年	月	沿 革
令和2年 (2020)	4月	藤崎台童園の入所定員を56名から54名に減員
	9月	2箇所目の地域小規模児童養護施設「つばき」開設
3年 (2021)	3月	ホール棟（旧5号棟）1階の一部を自活訓練室として改装
	4月	藤崎台童園の入所定員を54名から50名に減員
4年 (2022)	4月	藤崎台童園の入所定員を50名から48名に減員 藤崎台童園組織改革（衛生委員会、専門職連絡会議の設置等）
	10月	事務管理棟（旧2号棟）及び女子棟（旧3号棟）外壁の防水塗装工事を実施
5年 (2023)	4月	藤崎台童園の入所定員を8ホーム48名から7ホーム42名に減員
		3箇所目の地域小規模児童養護施設「しゃくやく」開設
	1月	事務管理棟（旧2号棟）2階を「こども支援室」などに改装
6年 (2024)	4月	北村直登から川越好真へ藤崎台童園園長交代 ホール棟（旧5号棟）1階に一時保護専用施設「りんどう」（女児定員4名）を開設
	10月	旧幼児部屋（保育園法面下）の建物を老朽化により解体撤去
	11月	事務管理棟（旧2号棟）3階を「一時保護専用施設」として改装し「りんどう」を移転
7年 (2025)	4月	旧幼児部屋跡地に東南ロータリークラブの協力で「ふれあい農園」を開設
	6月	ホール棟（旧5号棟）を解体撤去
8年 (2026)	4月	藤崎台童園の入所定員を7ホーム42名から6ホーム36名に減員
	6月	藤崎台保育園改築（6月15日竣工）

- (注) 旧1号棟（旧事務管理棟） 解体撤去済、跡地は園庭として活用  
 2号棟（旧男子児童棟） 現在の事務管理棟  
 3号棟（女子児童棟） 現在も女子児童棟  
 旧4号棟（旧厨房食堂棟） 解体撤去済、跡地に現在のグループホーム棟を建築  
 旧5号棟（旧ホール棟） 解体撤去し、保育園遊戯室として再築予定  
 旧浴室・倉庫 解体撤去済、跡地に現在の厨房棟を建築  
 旧幼児部屋 解体撤去済、跡地は「ふれあい農園」として活用  
 （崖下のため建築不可）